

# 技術交流会報告

與那嶺盛次

## 1. 課題

海産魚類養殖について

## 2. 目的

近年、本県においても漁協の養殖グループや養殖業者がマダイやハマフエフキ、シマアジ等の海産魚類養殖に取り組むようになった。そこで、海産魚類養殖の先進地である奄美大島瀬戸内漁協青年部との養殖技術交流や情報交換を実施した。また、奄美大島にある主な魚類養殖会社を視察した。

## 3. 交流会

奄美大島、瀬戸内漁協青年部

## 4. 日程

昭和63年7月4日

瀬戸内漁協青年部魚類養殖視察（久滋地区）

漁協青年部と魚類養殖技術交流及び情報交換

昭和63年7月5日

魚類養殖会社視察：城山合産、奄美養殖、宇検養殖、宇検養魚

## 5. 参加者

羽地漁協 屋良朝之、宮城秀護

北谷町漁協 浜元盛伸、山口栄勝、湧稲国朝秀

北谷町役場 稲嶺盛徳係長、瑞慶覧功係

糸満漁協 金城利治販売課長

引率 與那嶺盛次普及員

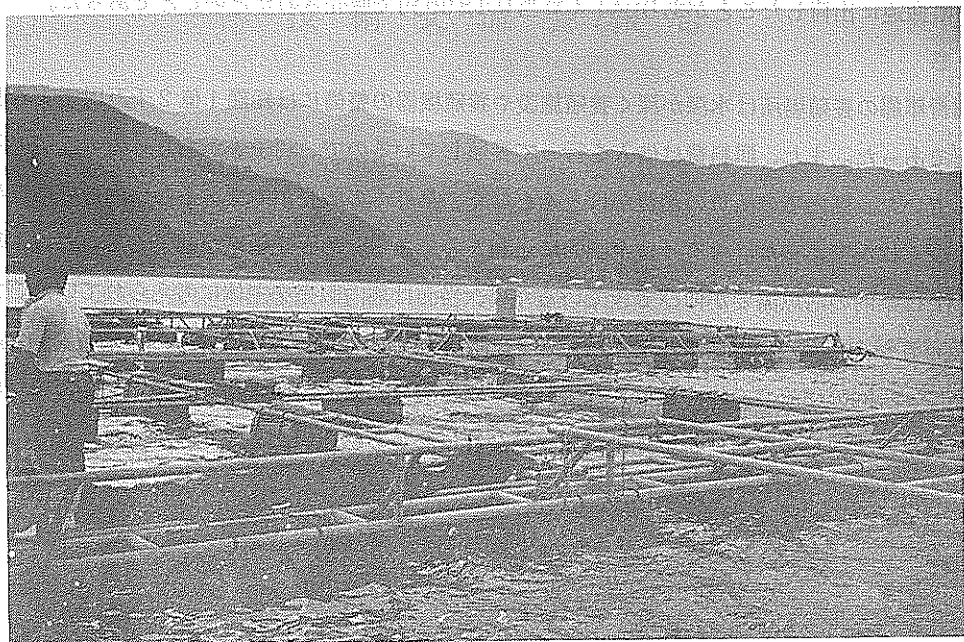
## 6. 交流及び視察状況

昭和63年7月4日瀬戸内漁協青年部が久滋地区で実施しているマダイとシマアジの養殖を視察したあと、漁協事務所で養殖技術交流と情報交換を実施した。青年部は国庫補助により養殖施設を整備し養殖を実施していた。養殖場所は湾内で水深40～50mのところであった。餌料はマダイ用配合飼料を使用し、投餌は1日2回で自動給餌器を用いていた。マダイは少量づつしか食べないため自動給餌器は有効であるということだった。種苗は奄美にある養殖会社から購入していた。販売はポート売りという方法で生簀の魚を一括して県外の活魚船に移し販売していた。

翌日の7月5日は奄美大島にある主な魚類養殖会社の視察を実施した。養殖会社は種苗生産を実施して種苗の自給自足を図っており、養殖している魚種はマダイ、シマアジ、カンパチ、イシダイ、トラフグ、ヒラメ、クロマグロ、ハマフエフキ、アイゴ類であった。ハマフエフキは鮮魚

所感

最後に、今回の交流会を快く受け入れていただいた瀬戸内漁協、同青年部、案内をしていただいた奄美水産業改良普及所、視察先の魚類養殖会社に心から感謝いたします。

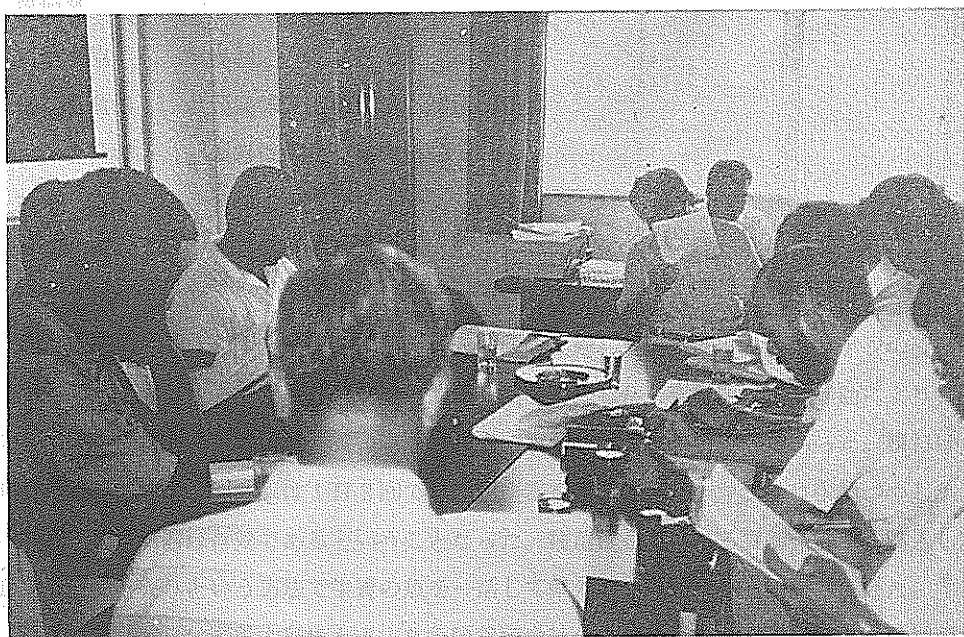


図一 瀬戸内漁協青年部員の小割生簀（マダイ、シマアジ）と自動給餌器

瀬戸内漁協青年部員と岡山県立大学学生との交流

昭和50年7月10日

岡山県立大学学生と瀬戸内漁協青年部員との交流



図二 瀬戸内漁協青年部との交流会